

聖書箇所：マタイ1：18～25、ヨハネ1：14

タイトル：隣り人となられた神

テーマ：イエス・キリストのご降誕に関して、マタイは「生まれる御子はインマヌエル（神は私たちとともにおられる）と呼ばれる」と記し、ヨハネは「ことばは人となって、私たちの間に住まわれた」と記している。クリスマスの意味を考えるにはさまざまなアプローチがあるが、今日はこれらのことばからクリスマスの意味を考えてみよう。

初めに：

(1) クリスマス——救い主である神の御子イエス・キリストが人としてこの世にお生まれ下さった日。

①旧約預言の成就…例；イザヤ7：14「それゆえ、主みずから、あなたがたに一つのしるしを与えられる。見よ。処女が身ごもっている。そして男の子を産み、その名を『インマヌエル』と名付ける。」→マタイ1：23 その他たくさんあり。

②イエスの生涯…人々に理解されず、嘲られ、ついには十字架による死に至る。

③「神が共におられる」「人の間に住まわれた」というみ言葉の意味——「神は私の隣り人になられた」ということ。

④私たちの人生…誰かの隣り人になったか。

(2) マタイ1：18～25 ヨセフという人物

①ヨセフは初め、マリアの隣り人になろうとしたか？

②ヨセフはマリアの隣り人となった。

③クリスマスの奇跡につながるヨセフの決断

④お生まれになった男の子（＝神の御子イエス）が引き受けた「隣り人」になる責任と犠牲。

本論：

(1) イエスのご生涯に見る「インマヌエル」なるお方としての生き方

- ・ご自分のいのちを惜しかなかった。
- ・いかなる人との関係も断とうとされなかった。
- ・遊女であっても、取税人であっても、病人であっても、人から相手にされない人たちの友となられた。
- ・良きサマリア人のたとえを用いて、「隣り人」となることの意味を教えて下さった。
- ・イエスのご生涯が「隣り人」として生きるお手本。
- ・誰かの隣り人になろうとする人を喜んでくださった。(マタイ25：40)

- (2) 「靴屋のマルチン」の物語に見る「隣り人」となること  
この物語の副題；「愛あるところに神あり」

結論：

- (1) 私たちにとって「隣り人」とは誰か？
- ・夫婦や親子？ 家族や親せき？ 隣りに住んでいる人？ 友人？ 勤め先の同僚や部下や上司？ 教会の兄弟姉妹？ よその国の人？
  - ・私たちが面倒や責任を引き受け、関わろうとするすべての人々（ヨセフや、良きサマリア人や、靴屋のマルチンのように）
- (2) 隣り人としてのイエス
- ・私たちの罪の重荷を引き受け、何があっても見捨てず関わって下さるお方。
  - ・私たちが誰かの「隣り人」になろうとするのを喜んでくださり、助けて下さるお方。
- (3) クリスマス——神が私たちの隣り人になって下さった素晴らしい日。イエス・キリストが365日、私たちの隣り人であってくださるように、私たちも365日、誰かの隣り人であり続けよう。新しい一年も私たちの心が、クリスマスの恵みで満たされますように。